

## 第1学年 算数科 授業構想シート

授業者 松本 都望

本実践の主張点	立式の根拠を表現する学習と求大・求小の学習を連続させることで、問題場面を数図ブロックや絵や図に表現する探究力が育つであろう。
---------	--

### 1. 単元名 たすのかな ひくのかな

### 2. 1年A組の子ども

これまでの学習を通して、問題場面を自分の言葉で話せる子どもが増えてきている。1学期はペア活動を積極的に取り入れ、式を算数の言葉（合わせて、増えて、残りは、違いは等）で説明したり、数図ブロックを操作したりしながら対話的な学習を続けてきた。これまでの問題場面については、ほとんどの子どもが立式することができる。立式の根拠については、言葉や数図ブロックで説明できる子どももいる一方、ペアの言い方を真似しないと話せなかったり、説明はできなかったりする子どもも数人いる。

### 3. 何ができるようになるか

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面を数図ブロックや絵や図に表現する力。（表現力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの表現と問題場面を比べることで正しく表現できているかを考える力。</li> <li>問題場面を自分の生活経験とつなげる力。（表現力を支える省察性）</li> </ul>

### 4. 何を学ぶのか

#### ① 単元の目標

数図ブロックや絵や図に表現することで、問題場面を立式して解決することができる。

#### ② 教材の価値

これまでたし算ひき算の意味理解を図り、計算の仕方について学習してきた。しかし、たし算の単元だからたし算、ひき算の単元だからひき算と、問題場面を捉えないまま演算決定をしている子どもがいないとは言いきれない。本単元「たすのかな ひくのかな」においても、安易に立式する子どもの姿が予想される。しかし、本単元で扱う立式の根拠を表現する活動は、問題場面が把握できていなければ表現することはできない。ここで、場面を数図ブロックや絵や図に表現することを大切に扱うことで、問題場面と式と図を丁寧につなぎたい。その上で、求大・求小を扱う。求大・求小は、場面を表した図と式が一致しづらく、子どもにとっても難しい学習である。この求大・求小を演算決定の根拠を表現する学習と連続して扱うことで、求大・求小の問題場面においても場面と式をつなげようとする姿を引き出せればと考える。

### ③ 学年間・教科間のつながり

算数科において場面と図と式をつなぐことは、第6学年まで通して大切な表現力と言える。1年「たし算」「ひき算」の学習で場면을数図ブロックや絵に表す活動から、本単元を経て、2年「かくれた数はいくつ」を通して、低学年期における数学的表現力を育成していく必要がある。また、本時は生活科の秋まき植物の発芽数を題材として扱う。子どもにとって身近な題材を扱うことで、教科間のつながりを意識した学びを構築できると考える。

## 5. どのように学ぶのか

### ①働かせたい思考スキル

くらべる   
 つなげる   
 まとめる   
 広げる   
 予想する   
 見方を変える

### ②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>単元計画（全5時間） 本時4/5</p> <p><b>第1時</b> たし算の問題場面をとらえて、たし算の演算を図に表し説明する。</p> <p><b>第2時</b> ひき算の問題場面をとらえて、ひき算の演算を図に表し説明する。</p> <p><b>第3時</b> たし算やひき算の問題場面をとらえて、たし算やひき算の演算を決定する。</p> <p><b>第4時（本時）</b> 求大（大きい方を求める）の問題場面を図に表し説明する。</p> <p><b>第5時</b> 求小（小さい方を求める）の問題場面を図に表し説明する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="text-align: center;">単元における授業づくりのしかけ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">探究力を育む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「どうしてたし算（ひき算）になるか」を問うことで、数図ブロックや絵や図に表現する姿を引き出す。</li> <li>・ 問題場面と数図ブロックや絵や図、式のつながりに目を向けさせたい。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">省察性を育む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの表現を言葉で説明させることで、場面と表現が一致しているのかを考えさせる。</li> <li>・ 身近な生活場面における求大・求小場面を想起させることで、生活経験とのつながりを意識させる。</li> </ul> </td> </tr> </table>		単元における授業づくりのしかけ	探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「どうしてたし算（ひき算）になるか」を問うことで、数図ブロックや絵や図に表現する姿を引き出す。</li> <li>・ 問題場面と数図ブロックや絵や図、式のつながりに目を向けさせたい。</li> </ul>	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの表現を言葉で説明させることで、場面と表現が一致しているのかを考えさせる。</li> <li>・ 身近な生活場面における求大・求小場面を想起させることで、生活経験とのつながりを意識させる。</li> </ul>
	単元における授業づくりのしかけ						
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「どうしてたし算（ひき算）になるか」を問うことで、数図ブロックや絵や図に表現する姿を引き出す。</li> <li>・ 問題場面と数図ブロックや絵や図、式のつながりに目を向けさせたい。</li> </ul>						
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの表現を言葉で説明させることで、場面と表現が一致しているのかを考えさせる。</li> <li>・ 身近な生活場面における求大・求小場面を想起させることで、生活経験とのつながりを意識させる。</li> </ul>						

## 6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加減計算（求大・求小）の意味について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加減計算の意味をもとに演算決定し、その根拠を言葉や図などを用いて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の生活場面での求大求小の問題に興味関心を持ち、進んで解決しようとする。</li> </ul>